

新講師に楠木建氏、中竹竜二氏を迎え  
「日本元気塾」第6期、2018年4月に開講  
困難な時代にこそ“レジリエンス:自らの手で道を拓く力”を学ぶ9カ月間

森ビル株式会社が運営する社会人向け教育機関「アカデミーヒルズ」(理事長 竹中平蔵)は、2018年4月より「日本元気塾(にっぽんげんきじゅく)第6期」(塾長 米倉誠一郎)を開講します。今期は、講師陣に、一橋大学大学院教授・楠木建氏と、日本ラグビーフットボール協会コーチングディレクター中竹竜二氏が加わり、9ヶ月間にわたり開催予定です。

日本元気塾第6期は、新講師として、ベストセラー『ストーリーとしての経営戦略』著者・楠木建氏(一橋大学大学院 国際企業戦略研究科 教授)と、“日本一オーラの無い監督(本人談)”として早稲田大学ラグビー部を2度の優勝に導いた中竹竜二氏(日本ラグビーフットボール協会コーチングディレクター)を迎えます。藤森義明氏(元LIXILグループ代表取締役社長)、日本元気塾塾長の米倉誠一郎氏(一橋大学イノベーション研究センター教授)も引き続きゼミを担当し、合計4つのゼミを開講します。

各界の第一線で活躍する講師陣が少人数のゼミで、じっくり9ヶ月間参加者と向き合い、「暗黙知」を伝える「日本古来の塾」スタイルは「日本元気塾」だけの魅力です。



【アカデミーヒルズ 日本元気塾第6期 実施概要】

塾長	米倉 誠一郎(一橋大学イノベーション研究センター教授)
講師	藤森 義明(元株式会社LIXILグループ 取締役 代表執行役社長 兼 CEO) 楠木 建(一橋大学大学院 国際企業戦略研究科 教授) 中竹 竜二(日本ラグビーフットボール協会コーチングディレクター)
期間	9ヶ月(2018年4月~2018年12月)/ゼミ講義7回+卒塾課題指導3回
定員	約100名(各ゼミ25名) 選考あり(エントリーシートによる選考)
受講料	216,000円(税込み)
お申込	Webにて受付 <a href="http://www.academyhills.com/school/genki/index.html">http://www.academyhills.com/school/genki/index.html</a>
締切	2月28日(水)正午

【取材・掲載の問合せ】

森ビル株式会社 アカデミーヒルズスクール事務局 佐野・小林  
住所:東京都港区六本木6丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー49階  
E-mail: [school@academyhills.com](mailto:school@academyhills.com) TEL:03-6406-6200 FAX:03-6406-9350

## 【日本元気塾とは】

幕末の「松下村塾」の現代版を目指し 2009 年に第 1 期を開講。「そもそも人間一人ひとりが元気でなければ、国が元気なわけがない」という米倉誠一郎塾長の思いから、「人が人に熱い思いを伝える」日本古来の「塾」という形式にこだわります。

知識には言葉にできる「形式知」と、言葉にできない「暗黙知」があります。日本元気塾は講師と共に活動することで、生き様や仕事の流儀などの「暗黙知」を間近で学び、「実現力」「行動力」を身につける場であり、現状の仕事や自分に満足することなく、新しい一歩を自分の足で踏み出せるようになるための学びの場です。これまで卒塾した約 400 名は、日本元気塾をきっかけに、独立・起業、NPO 法人の立ち上げ、地域イベント企画開催、企業内の新プロジェクト実施など、日本を元気にするべく各分野で活躍しています。

卒塾生主催イベント「HAPPY DAY TOKYO 2018」が 3/18 (日) 都立芝公園にて開催。

2012 年に国連が定めた国際幸福デー (International Day of Happiness) を広め、幸福について考え、感謝する日として定着させたいという思いからスタート。多くの卒塾生がブース出展やボランティアで参加、今年で 6 回目 (<http://happyday-project.org/>)

## 【ゼミ講義 7 回】 受講者は応募時に 1 つのゼミを選択します (2 時間×7 回)。

### 米倉ゼミ



#### テーマ：変化への創造的対応

**対象：あるべき姿を描きながら、現状を打破する勇気のある人**

講師：米倉 誠一郎 (日本元気塾塾長/法政大学大学院教授/一橋大学特任教授)  
日本におけるイノベーション研究の第一人者。“今の日本に足りないのは勇気とスピードだけ”と、イノベーションの重要性を説く講義は、トップ経営者から中高生まで絶大な人気を誇る。若きイノベーターの支援者としても、世界を股にかけて奔走している。近著に『イノベーターたちの日本史 近代日本の創造的対応』(東洋経済)がある。

### 藤森ゼミ



#### テーマ：藤森流“マネジメント”に学ぶ 変革を起こすリーダーシップ

**対象：今の自分から「変わりたい」と強く思っている人**

講師：藤森 義明 (元株式会社 LIXIL グループ取締役 代表執行役社長兼 CEO)  
アジア人初の米国 GE の上席副社長をつとめ、ジャック・ウェルチ氏から直接マネジメント/リーダーシップを学んだ経営のプロ。日本元気塾でやりたいことは「リーダーシップとはなにか、変革はどのようにして起きるのか、自己変革をどう起こしたらいいのかを考え、実行すること」

### 楠木ゼミ



#### テーマ：イノベーションの戦略ストーリーを創る

**対象：自分の好きなことを形にしたいという人**

講師：楠木 建 (一橋大学大学院 国際企業戦略研究科 教授)  
専攻は競争戦略。著書に、『ストーリーとしての競争戦略』『「好き嫌い」と経営』(ともに東洋経済新報社)、『戦略読書日記』(プレジデント社)、『経営センスの論理』(新潮新書)、『好きなようにしてください』(ダイヤモンド社)などがある。日本元気塾では「皆さんが何かを見つけ出すお手伝いができたらいい」とコメント。

### 中竹ゼミ



#### テーマ：成長し続ける「自分らしさに基づいたスタイル」の確立

**対象：本当の自分の実力を知らない。そんな思いを持っている人**

講師：中竹 竜二 (日本ラグビーフットボール協会 コーチングディレクター)  
早稲田大学ラグビー蹴球部監督、ラグビーU20 日本代表ヘッドコーチを務め、自律支援型の指導法で多くの実績を残す。日本で初めて「フォロワーシップ論」を展開した人のひとり。民間企業、地方公共団体、教育機関、経営者団体を始め、各方面から講演会・研修・セミナー・コンサルティングなども行う。

## 【米倉塾長による卒塾課題指導・3 回】 全員、卒塾時に今後のアクションプランを発表します。

課題「日本/世界を元気にするアクションプラン」提出

米倉塾長講義・オリエンテーション(全ゼミ合同)

中間発表

最終発表 各ゼミ講師も参加

インプットだけでなく、日本、世界のために何ができるか、参加者が自身のアクションプランを発表する場です。



## 「レジリエンス(resilience)～自らの手で道を拓く力～」

どんな時代、環境であっても、自らの手で道を切り拓く「実現力」「発信力」「行動力」を身につけるために必要なことは何か？4人の講師が「レジリエンス」について語ったセミナー。



開催日：2017年11月9日(木)

講師：米倉 誠一郎

藤森 義明

楠木 建

中竹 竜二

【参加者属性】

男性：女性 69%：31%

30代、40代が7割強

N=209



## レジリエンス～自らの手で道を拓く力～は学べるか



**藤森義明：** 本人の気持ちが先だと思いますね。レジリエンスを日本のことわざに置き換え「七転び八起き」、絶対諦めない気持ちがあるかどうか、です。ビジネスでもよくあるのですが、成功する直前まで来ているのに、本人はそれに気づかず、あと一步で成功できないことがある。だから絶対諦めないことです。日本人は歴史的にそれをずっとやってきた。だからレジリエンスが強いと思います。

**楠木建：** 私も能力よりメンタリティの問題だと思います。ただ、僕は無痛症なので、回復力も必要ない(笑)。僕はそういう構えですが、それぞれの構えの問題だと思います。

**中竹竜二：** 「逆境だ」と思うと緊張します。だから、ゲーム中のレジリエンシを上げるには「今だけに集中すること」。もうひとつ、私はよく人から叩かれたり、怒られたり、舌打ちされたりしますが(笑)、そんなときは客観的に自分を観ます。「そりゃそうだろうな、私でも舌打ちするよな」と思えば怒らないし、落ち込みもしない。自分自身の認知の問題だと思います。

**米倉誠一郎：** レジリエンスは学べるし、鍛えられると思います。僕自身は三日坊主なので、鍛えつづけることは簡単ではないとは思いますが。



## 限界は脳の中にしかない、メンタルロックを外せ

**楠木建:** 藤森さんに初めてお目にかかったとき、藤森さんって体育会系だなんて思ったんですよ。僕が「初めまして」と言ったら、「うっす!」、まるで部活(笑)。そのときに言われた言葉を今でも覚えています。「限界は脳の中だけにしかない」。

**米倉誠一郎:** ゼミの2年生が1年生に同じようなことを言っていた。「お前たちは自分にメンタルロックをかけている。もっと自由でいいんだ」と。いいことを言うなと思いましたね。「僕たちの第一の役割も塾生のメンタルロックを外すこと」。

**藤森義明:** 僕は毎日筋トレしているんですが、最近、トレーナーについてもらった。そうすると自分の限界を超えられる。ひとりだといつコンフォート・ゾーンに留まってしまうけれど、そこで満足してはダメなんだよね。ジャック・ウエルチも「これでいいなと思った瞬間に成長は終わる」と言っています。誰がどうやってその人のメンタルロックを外すか、そこが大事ですね。



**中竹竜二:** 選手のメンタルロックを外すために、私は「言葉」を使います。「打倒、ウェールズ」と最初に目標を設定したからこそ、次の試合で格上のサモアに勝ち、ベスト10に食い込むことができたのだと思います。皆、本気で勝てると信じたし、試合中も絶対勝てると思っていたんです。言葉の力はすごいです。

**米倉誠一郎:** 受ける側のタイプによっても、合う、合わないがあるよね。自己達成欲が強い人には「すごいね!」が効くけれど、分析型の人には全然効かない。ところが、「深いね!」というとなんか、前のめりになる(笑)。僕はガンガンやればカギは外れると思っていたけれど、60歳を超えて、やっと逆効果の場合もあることがわかった。だから皆さん、安心して下さい(笑)。

下記サイトにて公開中(全8章)

[http://www.academyhills.com/note/opinion/18011601genki\\_resilience.html](http://www.academyhills.com/note/opinion/18011601genki_resilience.html)

**【アカデミーヒルズ <http://www.academyhills.com>】**

森ビルは、「都市を創り、都市を育む」をテーマに、ハードとソフトの両面から都市づくりに取り組んでいます。「都市を育む」取り組みの一つとして、森ビルが運営するアカデミーヒルズは“自律的に自立する個人の支援”をミッションに、社会人向け「スクール事業」、会員制図書館を運営する「ライブラリー事業」、貸しホール・貸会議室を運営する「フォーラム事業」の3つの機能を軸に、都市生活者に対して「知的活動の場」と「教育の機会」を提供しております。